

「マタイ16章」

イントロ:

1. 文脈を確認する。
 - (1) イエスの公生涯の最後の年。
 - (2) 弟子訓練に精力を注ぐ。
 - (3) きょうの箇所は、弟子訓練の頂上である。
2. 目には、肉体の目と心(霊的な目)とがある。
 - (1) マルコ8:22~26の盲人の癒し。
 - (2) 段階を追って癒されている。福音書の奇蹟では、これが唯一のもの。
 - (3) イエスの弟子たちも、段階を追って目が開かれている。
 - ① 盲目の段階
 - ② 半分見えた段階
 - ③ すべて見えた段階(ペンテコステ以降)
 - (4) 私たちも、立ち聞きをしながら、よりよい弟子とならせていただこう。

目が開かれていく段階を確認することによって、より良きイエスの弟子となることができる。

I. 霊的な目が閉ざされている段階

1. パリサイ人やサドカイ人
 - (1) 「天からのしるし」を求める。
 - (2) これまでイエスが行ったしるしは、「地獄(サタン)からのしるし」である。
 - (3) イエスの回答。
 - ① 空模様の見分け方は知っている。
 - ② 「時のしるし」は見分けられない。「今がどういう時かを示すしるし」。
 - ③ 私たちは、今がどういう時かを見分けているか。
 - (4) 「ヨナのしるし」しか、与えられない(マタイ12:39の繰り返し)
 - ① ラザロの蘇生。
 - ② イエスの復活。
 - ③ 黙示録11章の2人の証人の復活。
 - (5) マタイ12章以降の奇蹟は、イスラエル全体のためではなく、弟子訓練のため。
2. 弟子たち
 - (1) パリサイ人やサドカイ人たちのパン種に注意せよ。
 - (2) 弟子たちの誤解

- (3) イエスの解説
 - ①パン種とは、「罪」、「偽りの教え」のこと。
 - ②パリサイ人のパン種とは、イエスが悪霊につかれているという教え。
 - ③サドカイ人のパン種とは、イエスが神殿礼拝を否定しているという教え。
- (4) 弟子たちは、ようやく「悟った」。
 - ①その悟りがどの程度であるかを試すテストがやって来る。
 - ②パン種は、イエスのメシア性を否定する教え。
 - ③弟子たちは、イエスがメシアであることを認められるか。

II. 霊的な目が開かれる段階

1. 場所

- (1) ピリポ・カイザリヤは、ヘルモン山の麓の町。
- (2) 元の名は「パニアス」。偶像神「パン」の宮があった。
- (3) アウグストからその町を与えられたヘロデ大王は、皇帝崇拜の神殿を建てた。
- (4) その子ヘロデ・ピリポは、テベリオに敬意を表してピリポ・カイザリヤとした。
- (5) 切り立った崖と洞窟。当時は、そこから水が溢れ、バニヤス川となっていた。
- (6) 川底には、大小さまざまな石が散らばっていた。

2. イエスの質問(1)

- (1) 「人々は人の子をだれだと言っていますか」
- (2) 弟子たちの答え
 - ①バプテスマのヨハネ。復活したヨハネ。
 - ②エリヤ。マラキ書4章の成就。
 - ③エレミヤ。涙の預言者。
 - ④預言者のひとり。それ以外の預言者。
- (3) イエスの超自然的な権威は認めているが、メシア性は認めていない。

3. イエスの質問(2)

- (1) 「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」
- (2) 「あなたがた」に強調点がある。
- (3) ペテロの答え。
 - ①メシアです。
 - ②神の御子です。
 - ③生ける神の。
- (4) イエスの応答。祝福のことば。
 - ①幸いです。
 - ②天の父が示された。
 - ③イエスがメシアであるとの信仰を与えられている私たちは、幸いです。

4. 教会設立の約束

- (1) 「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます」
- (2) カトリック教会は、「この岩」をペテロと取る。しかし、釈義上の無理がある。
- (3) 「ペテロ(ペテロス)」(男性名詞)とは小石のこと。
- (4) 「岩(ペトラ)」(女性名詞)とは岩山のこと。
 - ①旧約聖書では、「岩」が象徴的に用いられた場合は、メシアを指す。
 - ②ここでの「岩」は、イエスをメシアとして信じる信仰。
- (5) 「教会」という言葉が初めて出てくる。
 - ①未来形。教会が建てられるのは将来のこと。
 - ②「教会」という概念は、マタイ16章で初めて出てくる概念。
 - ③ペンテコステの日に教会が誕生した(使徒2章)。
 - ④教会は、奥義である(エペソ3:6)。
 - ⑤「ハデスの門もそれに打ち勝てない」。教会の永続性のこと。

5. ペテロに権威を与える約束

- (1) 「天の御国のかぎ」
 - ①この文脈では、「天の御国」とは霊的な王国(教会)のこと。
 - ②ペテロは、閉ざされた扉を開いて、人々を教会に入れる役目を果たす。
 - * 使徒2章。ユダヤ人。
 - * 使徒8章。サマリヤ人。
 - * 使徒9章。異邦人(コルネリオ)。
 - ③一度開いた扉は、開かれたままである。
- (2) 使徒的権威。
 - ①「つなぐ(縛る)」、「解く」の意味。
 - * 紀元1世紀のラビ用語。
 - * 禁止と許可。有罪と無罪。
 - ②新約聖書の書簡の中にある教え。
 - ③アナニヤとサツピラに下った神の裁き(使徒5章)。
 - ④悪霊の縛りとは無関係。
 - ⑤「悪魔に立ち向かいなさい」(I ペテロ5:9)とあるだけ。

Ⅲ. 霊的な目が未だにぼやけていることが明らかになる段階

1. 初めてのメシア受難の予告

- (1) 神の国のプログラム。
- (2) これ以降、繰り返される(17:9、12、22～23、20:18～19)。
- (3) 先に行くほど詳細になるが、弟子たちは理解しなかった。
- (4) イエスが十字架にかかった時、仰天した。

2. 受難の4つの側面

- (1) エルサレムに上る。
- (2) 長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受ける。
- (3) 殺される。
- (4) 3日目に復活する。

3. ペテロの反応

- (1) イエスを引き寄せて、いさめる。
- (2) イエスは、「下がれ。サタン」と言われた。
 - ①ペテロの行動が、サタンの立場に立っている。
 - ②十字架から遠ざける。
 - ③荒野の誘惑の本質も、それと同じものであった。
- (3) 神学(理解)が伴わない「熱心な信仰」は、危険である。

4. 弟子としての道

- (1) 日本流に言うところ「弟子道」である。
- (2) 救いは、信仰により、恵みによって与えられる。これが基本の真理。
- (3) イエスの弟子になるためには犠牲が伴う。
 - ①自分を捨てる。自己中心的な生活をやめる。
 - ②十字架を負う。イエスの死と一体化する。
 - * この文脈では、ユダヤ人の指導者たちから拒否されること。
 - * 私たちも、この世から拒否されてもそれを甘受する。
- (4) いのちを救おうとする者はそれを失う。
- (5) イエスのためにいのちを失う者は、それを見いだす。
 - ①霊的な守り、安全が保証される。
 - ②霊的な豊かさが保証される。

(例話) 毎月贈呈している140冊の「クレイ」の中の35冊がK刑務所用。

- * 現在35名が、「クレイ」を使ってデボーションをしている。
- * その内、5～6名が洗礼の学びをしている。
- * 昨年3名が洗礼を受け、合計6名がクリスチャン生活を送っている。
- * 昨年は6回のグループ教誨があったが、驚くような聖霊の祝福があった。
- * 書籍係りが、毎月の「クレイ」の差し入れを見て、自分もと申し出た。
- * 2月6日には、3名の洗礼式がある。
- * 来月号から5冊増やして40冊にして欲しい。

5. 将来の報酬

- (1) 受難のしもべは、栄光の王、審判者として再臨される。
- (2) その時、それぞれに報いが与えられる。それは、千年王国での地位に関係する。
- (3) 弟子たちの中には、その生存中に、神の国の栄光を見る人がいる(マタイ17章)。

結論

1. イエスはメシアである。これで、50点。
2. イエスは受難のしもべである。これで、75点。
3. イエスの弟子となる道は、私たちに2つのことを約束している。これで、100点。
 - (1) 弟子たちには、地上生涯での霊的安全と豊かさが保証されている。
 - (2) やがて来るべき千年王国においては、重要な使命と地位とが用意されている。